



▲ご家族に囲まれ記念撮影

## 渡部マサエさん(楢戸) 百歳賀寿おめでとうございます

渡部マサエさんが、11月10日にめでたく満100歳を迎えられ、ご家族の方同席のもと只見ホームで知事賀寿の贈呈式が行われました。賀寿を記念して木杯や祝金が関係者から手渡されたほか、ひ孫からはお祝いの花束が贈られました。

マサエさんの長寿の秘訣は好き嫌いをしないで何でも良く食べ、細かいことは気にしない楽道家であることだそうです。

## 広報ただみ診療所

朝日診療所  
医師 若山 隆



### 「エボラ出血熱について」

早いもので、もう師走となりました。何かと忙しいこの時期ですが、無理して体調を崩されないようお気を付けください。

今回はエボラ出血熱についてお話させていただきます。エボラ出血熱は、今年3月から8月までに1,000人を超える感染があり、WHOがエボラ出血熱の流行が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」であると宣言しました。日本でも度々テレビのニュースなどで話題になっていたの、見た方も多いと思います。11月に入っても感染者数15,000人以上、死亡者数5,000人以上と増え続けています。

エボラ出血熱がこんなに大騒ぎになる要因は2つあり、1つは、命をおとす重症な疾患であるからです。医療環境が悪ければ、90%の方が命を落とすという報告があり、先進国でも3割近い方が亡くなるとされています。2つめは、ヒトからヒトに伝染するからです。感染はエボラ出血熱患者の吐物・尿・便・血といった体液に直接接触することによって起こります。空気を介した感染はしません。

エボラウイルスの症状は、普通の風邪と区別が付きません。発熱、倦怠感、頭痛、のどの痛み、嘔吐・下痢などです。重症で末期になれば、目や鼻などからの出血がみられる事がありますが多くはないです。なので、エボラウイルスを疑うきっかけはエボラウイルスの流行している国にいたかどうかです。

エボラウイルスを心配する方もいるかもしれませんが、日本でエボラ出血熱が流行する可能性は極めて低いと

されています。その理由はエボラ出血熱の感染力は高くないからです。インフルエンザのように空気を介して感染することはなく、患者の吐物・下痢便・血液に直接触れなければ感染しません。アメリカではエボラ患者が電車・バスなどの公共機関で移動したそうですが、だれにも感染しませんでした。また、現在、エボラウイルスが流行している主な国は3つ(ギニア・リベリア・シエラレオネ)だけで、いずれの国とも日本との直行便はなく、人の出入りは多くありません。空港などでも出入りは厳しくチェックされ、渡航歴があれば毎日体調を報告するように義務付けられ、異常があれば専門施設で管理されます。

エボラウイルスに関しては、只見で心配することなく安心して生活していて大丈夫です。まずおられないと思いますが、もし図に示す西アフリカの国に行つてこれ、具合がよくないという方がおられたら、保健所か診療所にご相談ください。

**西アフリカでのエボラ出血熱の発生が続いています**

西アフリカへの渡航歴  
はありますか？

**ギニア、リベリア、  
シエラレオネに  
過去1か月以内に  
渡航された方は、  
必ずお申し出ください**

皆様のご協力をお願いいたします